

大坂 女王の貫禄

ぜんごう 全豪テニス 完勝V

優勝の瞬間、ラケットを頭上に掲げて喜びを表現した。今大会の大坂の強さを象徴するような完勝だった。

ブレイディは、サーブで184キロを記録するなど持ち味のパワーで押した。だが、大坂は丁寧なサーブを返してラリー戦に持ち込み、バックハンド側を狙って相手の長所を消した。

今大会、大坂が強調していたのがリターン※の向上だ。契機となったのが昨年の全米オープン決勝。相手のビクトリア・アザレンカ（ベラルーシ）を見て、「彼女のような強力なリターンを打ちたい」と感じた

という。「（良い）リターンの数を増やせば相手に圧をかけられる」とウィム・フィセッテコーチ。進化を求め、大坂はリターン練習に多くの時間を割いた。

その結果、準決勝で対戦したセリーナ・ウィリアムズ（米）のようなビッグサーバー相手にもリターンで優位に立つ場面が増えた。

ブレイディの第1サーブ成功率が48%にとどまったのも、無言の圧の表れだろう。大坂は「サーブがあまりよくなかったけど、リターンが助けてくれた。昨年までならそうは言えなかった」と成長に胸を張った。

これで初優勝した20

リターン向上強さ別格

オーストラリアのメルボルンで2月20日に行われたテニスの全豪オープン女子シングルス決勝で、第3シードの大坂なおみ（日清食品）は、第22シードのジェニファ・ブレイディ（米）に6―4、6―3と快勝し、2年ぶり2度目の優勝。全米オープンの2度を含めて四大会4勝目を挙げた。

(2021年2月21日 読売新聞朝刊より)

大坂		ブレイディ
6	サービスエース	2
2	ダブルフォルト	4
48% (30/63)	第1サーブ 成功率	48% (29/60)
71% (40/56)	リターン 成功率	67% (41/61)
16	決定打	15
24	凡ミス	31

大坂とブレイディの
決勝のデータ

18年の全米以降に開かれた9度の四大会で、4度頂点に立った。この間、複数回優勝したのは大坂だけと、その強さは突出している。まだ23歳ながら、既に絶対女王の風格を漂わせている。

※「リターン」＝サーブの返球

1 傍線部「相手の長所」、「無言の圧」とは、それぞれ何を指していますか。記事の中から7字で抜き出しましょう。

相手の長所

無言の圧

2 表「大坂とブレイディの決勝のデータ」は、記事に書かれている内容のどの部分を数値で示したのですか。次の中からあてはまるものを選びましょう。

- ① 大坂選手が、相手のバックハンド側を狙ったこと。
- ② ブレイディ選手が、サーブで（時速）184キロを記録したこと。
- ③ 昨年の大会と比べて、大坂選手のリターンが向上したこと。
- ④ 「決定打」の数はほぼ変わらず、「凡ミス」の数が勝敗を分けたこと。
- ⑤ 大坂選手は「サーブがあまりよくなかったけど、リターンが助けてくれた」と言っていること。

3 2018年の全米オープン以降に開かれたテニスの四大会で、女子シングルの優勝を経験した選手は、大坂選手を含めて何人ですか。